

1. 緑区利用状況中間報告（1月末時点）

平成31年4月1日～令和2年1月31日までの開館日数は、年末年始の休館日（12月29日～1月3日）を除いて300日です。なお、椎名公民館は令和元年10月25日の大雨により、裏手崖に土砂崩れが発生したことから、翌日の10月26日より休館となりましたので、開館日数が208日となっています。1月末現在までの利用者数は、緑区全体で107,799人です。利用者人数の内訳は、公民館の主催事業が8,796人、クラブ連協をはじめ各サークルの社会教育団体が77,424人、子供会や自治体などのその他が15,886人となっています。延べ利用回数は10,736回で、時間帯では午前の利用回数が最も多く4,003回、続いて午後が3,844回、夜間の利用回数は2,264回です。

続いて、年度別の利用状況の推移ですが、28年度が113,545人、29年度が112,426人、30年度が117,499人、令和元年度が107,799人です。台風15号、19号や、大雨などの災害による椎名公民館の休館や他の公民館も避難所開設などにより利用者数が大きく減少しています。また、昨年度は、あすみが丘プラザの休館などもあり利用者数が増えましたが、ここ数年の傾向としては、新規の利用団体や個人利用者の登録はあるものの、定期利用団体の会員数が高齢化に伴い減少していることで、全体の利用者数は横ばい状態となっています。

次に公民館図書室の利用状況についてですが、令和元年度の開館日数は285日、閉館日数は21日です。閉館日は、例年ですと年末年始と毎月第3木曜日の「図書整理日」、及び「電気設備の点検」の17日ですが、本年度は台風の1日と隔年毎に行われている蔵書点検の3日のため、昨年度より4日多くなっています。蔵書数ですが、令和2年1月31日現在で47,734冊となり、前年度より大きく減少しています。これは、本年度も図書室の本棚を整理整頓し、利用者が使いやすい環境を整えるために、古くなった本などを大量に除籍したことによるものです。現在までの新規購入図書は536冊で、昨年度に比べて大きく増えており、本年度も図書購入費520,000円と一昨年度の2倍の配当となり、より計画的な蔵書の購入に努めることができています。また、登録者数は、令和2年1月31日現在で3,930人で、なかでも児童の新規登録者数は738人で87人の増となっています。これは昨年度に引き続き、各小学校にご協力いただいた成果であると言えます。最後に、貸出者数は18,089人で、1日当たり32人、貸出冊数は全体で49,775冊となり、1日当たり87冊となっています。

2. 令和2年度公民館年度運営方針・事業計画重点項目等一覧

| | 公民館名 | 令和2年度運営方針 | 令和2年度事業計画重点項目・特色 | 前年度からの改善点 |
|---|---------|--|---|---|
| 1 | 誉田公民館 | 地域社会との連携を密にして、機動的な施設運営を推進する。 | 館の特性を活かし、家庭教育事業及び少年教育事業の充実を図る。利用促進を図る観点から、適宜、地域社会福祉施設への情報発信を行う予定。 | 利用者からの要望により、来たるべき災害に備えた講座、障がい者に対する理解を深める講座を企画した。 |
| 2 | 椎名公民館 | 令和2年4月1日～令和3年3月31日まで休館 | | |
| 3 | 土気公民館 | 利用の少ない若年層やファミリー層の取り込みを図るとともに、地域に根差した内容の事業を地域の方の協力を得ながら行う。 | 土気地域に関する内容や土気地域の方を講師とする事業を継続して行う。親子・家族で気軽にロビーで活動する「ぬりえカフェ」を、原則毎月1回行う予定。 | 地域の方と連携した講座、他事業所と連携した講座を積極的に増やした。 |
| 4 | 越智公民館 | 地域住民の主体的な参画を促し、学校等との協働活動が、適切な連携の下に円滑かつ効果的に実施されるよう必要な措置を講じるとともに障害者への生涯学習の推進を図る。 | 地域資源（自然・人など）を活用した多世代交流型の体験講座の実施。障害の有無にかかわらず共に学び体験できる講座の実施。 | 地域課題に即した多世代交流型の講座や要望のあった書道や自然観察会などの体験型講座あるいは高齢者や女性に特化した講座を拡充した。 |
| 5 | おゆみ野公民館 | 広報活動（ホームページ：公民館だより、掲示物、配布物等）の充実を図り、利用者増を目指す。 | 地域人材を活用した講座を増やした。（4講座→6講座） 成人教育では、年間のバランスを考えて計画し、利用者が参加しやすいようにした。 | 前年度の参加率やアンケート結果をもとに、講座内容の改善を図った。（少年教育、成人教育） |